

あめ いわやど
 ～天の岩屋戸～



アマテラスオホミカミ



オモイカネノカミ
 (作戦を考える)



イシコリドメノミコト
やたのかがみ
 (八咫鏡をつくる)



タマノヤノミコト
またま
 (勾玉をつくる)



アメノコヤネノミコト
のりど
 (祝詞を唱える)



フトダマノミコト
 (占いをする)



アメノウズメノミコト
かぐら
 (神楽を舞う)



アメノタチカラノカミ
 (アマテラスオホミカミを引き出す)

タケハヤスサノヲノミコトの横暴おうぼうに腹を立てたアマテラスオホミカミは天の岩屋戸をひらいて、中にお隠れあめやすかわになります。すると世界は闇に包まれ、悪い神々が騒ぎ始めて悪い事が起こり始めます。天の神々は天安河あめやすかわに集まって、オモイカネノカミを中心に協議きょうぎします。祭祀さいしにあたる神々が集まり、供え物が並べられ、アメノウズメノミコトの踊りがはじまると、神々はおおいにお笑いになりました。その笑い声を不思議に思い、そっと岩戸を開けたアマテラスオホミカミをアメノタヂカラノカミが岩屋いわやの外に連れ出し、世界に太陽の光が戻ってくることになりました。